

2
0
1
9

6.15
sat

山崎ハコ
With
安田裕美

豊橋ライブ VOL.5

徳の国とよはし芸術劇場 PLAT
TOYOHASHI ARTS THEATRE
アートスペース

※豊橋駅直結 豊橋駅南口から徒歩3分

開場/17:00 - 開演/18:00

〈全席指定〉

当日・前売 5,000円

※車いす席あり・未就学児は入場いただけません。

〈チケット発売開始〉
2月28日(木) 10:00~

〈チケット取扱い〉
プラットチケットセンター
窓口・電話 0532-39-3090 (10:00-19:00 休館日を除く)
オンライン <http://toyohashi-at.jp> (24時間受付,要事前登録)

主催:山崎ハコ 新・見守る会 / お問い合わせ:[野尻]080-3656-4578(携帯) / メール:hakogumi.toyohashi64@gmail.com / Facebook:山崎ハコ 新・見守る会(<https://www.facebook.com/>)

山崎ハコ

with

安田裕美

豊橋ライブ vol.5



山崎ハコ (vo,g)

大分県出身のシンガーソングライター。17歳で出場したフォークコンテストで優勝し、翌年の1975年にアルバム「飛・び・ま・す」でレコードデビュー。以来、独自の世界ながらも、どこか懐かしい歌の世界を披露し続け、平成24年に発表したアルバム『縁-えにし-』では日本レコード大賞「優秀アルバム賞」を受賞しました。

『縁-えにし-』は山形県の民家で録音されたアルバムでしたが、この家からは2年後に『歌っ子』、さらに2年後『私のうた』、後にハコさんが山形三部作と呼ぶことになる3枚のアルバムが誕生しました。そして、一昨年暮れにアルバム制作をスタートするとの嬉しい発表もありましたので、たぶん山形四部作目にお目にかかれるとハコファン（ハコっ子って呼ばれています）は思い期待したのです。

しかし昨年の6月に発表されたアルバムのタイトルは「横浜から 阿久悠未発表作品集」でした。ハコさん、阿久悠さんのトリビュートアルバム「歌鬼 (Ga-Ki) 2008年」で「ざんげの値打ちない」を歌っていますが、アルバム発表の前年に阿久悠さんは亡くなられており、そのことを知らないはず。ではどのような縁がハコさんと阿久悠さんを結びつけたのか？

鍵はアルバムジャケットのイラストを描いた上村一夫さんでした。デビューからずっとアルバムだけを発表していたハコさんでしたが、初めてのシングルを出すとなったときに、上村さんにカバーイラストを描いてもらおうと考えました。デビュー前のハコさん、阿久・上村コンビの名作『男と女の部屋』を愛読していて、劇画に登場する演歌のような歌詞に勝手に曲をつけて歌うほどの大ファンでした。当たって砕けろとダメ元でお願いしてみるとなんとOKをいただき、1978年ハコさんのファーストシングル「流れ酔い唄」は、貴重な上村一夫さんのイラストとなりました。

そしてそれが縁となり、2007年に出版された復刻版『男と女の部屋』には17歳のハコさんが作曲した『男と女の部屋』がCDとして付けられ、阿久悠さんの耳にも届きます。その事を、天国の上村一夫さんに阿久さんが報告しているFAXもあるのです！そして、トリビュートアルバム「歌鬼 (Ga-Ki)」の制作スタッフから「ざんげの値打ちもない」を歌う歌手として依頼されたのでした。この歌が「じわじわと浸透し始め、阿久悠 × 山崎ハコをもっと聴きたいという話が具体化し、今回の「横浜から 阿久悠 未発表作品集」と繋がっていくのですが、そこには、今は天国にいる上村一夫さんと阿久悠さんの後押しが存在しているように感じますし、こうなることが必然であったようにも思えてきます。

さて、今年で五回目を迎えることになる山崎ハコ with 安田裕美「2019 豊橋ライブ vol.5」ですが、ライブでは「横浜から 阿久悠未発表作品集」の歌も歌われます。ハコさんが阿久悠さんの魂、心情をどのように歌うのかを、是非。多くの皆さんに実感していただくことを心から願っています。

安田裕美 (g)

北海道出身のギタリスト。日本を代表するアコースティック・ギタリストであり、山崎ハコさんの公私どものパートナー。井上陽水さんの「氷の世界」は日本における最初のミリオンセラーアルバムとして有名ですが、安田さんは、このアルバムの殆どの曲の演奏に携わり、「帰れない二人」や「白い日」などの名曲のフレーズを生み出し、陽水のボーカルをサポートされていたのです。そして安田さんは、ハコさんのファーストアルバム「飛・び・ま・す」にも参加されています。アルバム一曲目の『望郷』そして三曲目の『かざぐるま』、あの曲に安田さん以外のギターの音を考えることは出来ない、いつ聴いてもそう思わせてくれる素晴らしいアコースティック・ギターの色です。

安田さんのギター伴奏は、ボーカリストの持つ魅力を前面に押し出すことだけに専念されていて、必要な音だけを最小限に演奏されている印象ですが、1音1音が素晴らしい音色で奏でられるので、深い余韻を私たちに残してくれます。「飛・び・ま・す」などの初期アルバムから最新アルバムの『横浜から』に至るまで、ずっと山崎ハコさんの歌唱を支えてきた安田裕美さんのギターの素晴らしい音色。そして見事なアレンジをお楽しみいただきたいと思います。